巻頭言

次世代を担う学生の方々へ

東京支部長　宮津純一郎

若者の理工系離れが日本の科学技術の将来を左右する問題であるのと同様に，学生員数の伸び悩みは本会の将来にとって重大な問題です．ここでは，数多くの学生の方々に本会に参加して頂くための一助となればと思い，学生の方々にとっての学会の意義について考えてみたいと思います．

学生の方々の学会活動を支援するための施策がこれまでも種々実行されてきましたが，本会が50周年を迎えた昭和42年当時と比較して，現在の学生員数は半分程度に止まっています．この理由として，会誌の内容や講演会の内容が難解であり，必ずしも学生員にとって魅力的でなかったこと，学生の学会活動を支援するための取り組みが効果的にPRされていなかったこと等が考えられます．しかし，大きな理由として，学生にとって学会とは，自らの研究成果の発表の場であり，極めて専門化された領域の情報を得るための手段と捉えられていることがあると思います．これらの目的のみを達するためには，大学の研究室に属する学生にとって，自らが会員となる必要は必ずしもないといえます．

しかしながら，現在，電気通信を取り巻く技術分野は大きく拡大すると共に，分野間の融合による新たな分野の出現には目覚ましいものがあります．例えば，本会の50年史と75年史に登場する技術分野数は約2倍に拡大しており，分野間の融合により，コンピュータネットワーク，化合物半導体デバイス等が新たに出現しています．このような時代においては，電気通信に携わる技術者にとって，自分の専門分野を究めることはもちろん，社会の動きや技術の動向を見通せるような幅広い視野を持つべく積極的に研鑽を積むことがますます重要になっていくのではないでしょうか．

学生の方々にとって，大学とは，各々の専門分野を確立し，その専門分野を深く探究するための場でありましょう．一方，学会とは「学問分野を同じくする方々が自由に情報交換を行い，互いに切磋琢磨する場」であるのが理想の姿であります．そして学会は，さまざまな分野のスペシャリストの活躍する姿に触れ，互いに議論しあうことにより，大学で学ぶ専門分野という柱に自分なりに肉付けして，広い視野を持つ技術者として成長することを可能とする場であると思います．今，学会という「船」は，ソサイエティ制への移行の試み等により，より自由な意見交換の場，また，若手会員が活躍できる場となり，時代の流れに対応するべく変革のただ中にあります．次の課題は，新しい「船」を動かして，新しい時代に漕ぎだしていく「船乗り」を獲得することだと思います．数多くの学生の方々に，学会に対する認識を新たにして頂き，我々と共に新しい「船」を動かしてくれることを願っています．